

～ 心臓超音波検査について ～

超音波を用いて、体の表面から心臓の形や大きさを見る検査で、超音波を用いるため被爆などの影響はありません。

体の表面に超音波ゼリーをつけて専用のプローブで観察します。

検査時間は30分から1時間程度です。

心臓は4つの部屋(右心房・右心室・左心房・左心室)に分かれており、肺で酸素が取り込まれ、血液を全身に送り出す働きをしています。

体に血液を送り出すポンプの役割をしている左心室の働きに異常がないかや、心臓の病気があるかどうかを見るためにこの検査をします。

左心室の大きさ、壁の厚さ、どれくらい収縮することができるかなどを評価します。

心臓の部屋と部屋を区切る扉のような機能をしているのが弁と呼ばれる構造で、弁の入口が狭くなったり、うまく閉じなくなって血液が逆流していないかを評価することができます。

心電図検査などで心臓の異常を指摘された方、動悸などの自覚症状がある方にお勧めの検査です。



